

大学生が卒業後に地域で働き続け、 地域とつながるための要因分析

青森中央学院大学経営法学部 地域密着アクターズ

代表 山本心太郎

伊藤 皓平

古舘 大河

佐藤 逸良

高橋 空也

1 はじめに

(1) 青森県の現状と課題

総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告書 平成 29 年度結果」によると、青森県の転出超過人数は全国ワースト 5 位である。また、青森県「平成 29 年 青森県の人口」では、主に 18 歳、20 歳、22 歳など若い年代の人々が進学・就職により県外へ非常に多く転出していることが分かる。

若い世代の転出超過は、すなわち将来における青森県の社会と経済の担い手の減少を意味する。このままでは、地域で暮らす人々にとって、インフラが維持されたり、必要なサービスを受けたりすることが難しくなる。また、地域コミュニティの衰退も課題として挙げられる。地域の持続可能性を高めるためには、若い世代が青森県内に定住し、地域とつながりを持つことが必須となる。

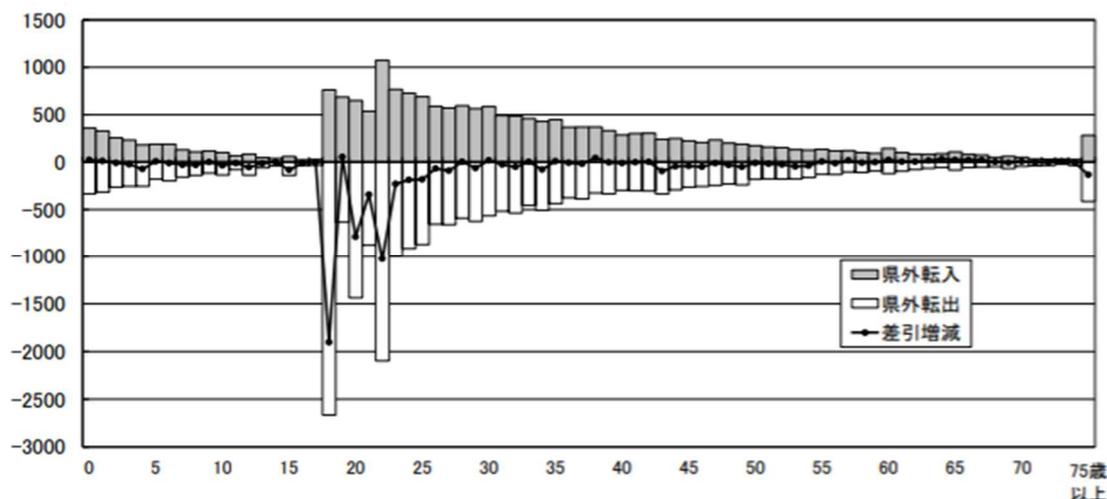
表 1. 人口動態の推移

(単位: 人、%)

年次	人口	人口 増減数	人口 増減率	自然			自然 増減率	社会			社会 増減率
				増減数	出生数	死亡数		増減数	転入者	転出者	
平成23年	1,363,038	-10,301	-0.75	-6,695	9,559	16,254	-0.49	-3,606	22,074	25,680	-0.26
24	1,349,969	-13,069	-0.96	-7,756	9,193	16,949	-0.57	-5,313	21,272	26,585	-0.39
25	1,336,206	-13,763	-1.02	-8,255	9,070	17,325	-0.61	-5,508	20,975	26,483	-0.41
26	1,321,895	-14,311	-1.07	-7,863	9,152	17,015	-0.59	-6,448	20,393	26,841	-0.48
27	1,308,265	-13,630	-1.03	-8,587	8,570	17,157	-0.65	-6,278	19,981	26,259	-0.47
28	1,293,681	-14,584	-1.11	-8,678	8,726	17,404	-0.66	-5,906	20,081	25,987	-0.45
29	1,278,581	-15,100	-1.17	-9,378	8,171	17,549	-0.72	-5,722	20,186	25,908	-0.44

出所：青森県（企画政策部統計分析課）ウェブサイト

表 2. 年齢別県外転出入の状況（平成 29 年）



出所：青森県（企画政策部統計分析課）ウェブサイト

(2) 調査目的

青森県内の大学生が卒業後に県内で働き、県内で地域とつながりを持つようになるためにはどのような要因が影響するのかを、大学生へのインタビュー調査から明らかにする。本研究では、青森県内の大学生が卒業後に県内で働き、県内で地域とつながりを持つことを「地域密着」と呼称する。

2 調査方法

(1) 調査形式

調査は 2018 年 11 月・12 月に実施した。あらかじめ設定した質問をもとに対話する半構造化インタビューを行った。インタビュー調査は、巻末の別添様式 1「インタビュー調査の進行」に基づいて行った。

(2) 調査対象

調査は、地域が偏らないように青森市、八戸市、弘前市のそれぞれに所在する大学の学生、計 11 名に対して実施した。大学は青森大学、八戸学院大学、八戸工業大学、弘前大学、東北女子大学の 5 校である。

(3) 質問内容

大学生の地域密着要因を測定するために、「地域への愛着」尺度（引地・青木・大淵，2009）を使用し、この尺度を本研究における地域密着と定義した。この「地域への愛着」に影響を及ぼす要因にはどのようなものがあるかを、同じ大学生でもある地域密着アクターズの中で議論を重ねた。その結果、要因の候補項目として、「地域の人とのつながり」「就職」「地域に感じる魅力」の 3 つを抽出した。

《地域密着を測定する質問》

① 地域への愛着

- 1) 青森に住み続けたいかどうかの定住意向
- 2) 自分が地域の一員と感ずるかどうかの所属意識
- 3) 自分にとってなくてはならない場所かどうかという土地の重要さ
- 4) 地域の人々が大切かどうかという住民の重要さ
- 5) 住みやすいかどうかという住みやすさについて

《地域密着に影響を及ぼす要因としての候補項目の質問》

① 地域の人とのつながり

- 1) 小学校から高校までの友達との友好関係
- 2) これまでの人とのつながり
- 3) 町内でのお祭りや清掃などの地域の活動をしていたかどうか
- 4) その活動で広がった縁、知識はあるか
- 5) 参加してよかったと思うことがあるか

② 就職

- 1) 県内就職を希望するかどうかとその理由について
- 2) 就職にあたって仕事でやりたいことはあるか
- 3) 企業に求めることは何かということについて

③ 地域に感じる魅力

- 1) 青森をどう思っているか（例：地域の魅力は何か）
- 2) 地域への理解度について（例：地域の観光地や特産品は何か）

3 インタビュー調査結果

青森市、弘前市、八戸市にある5つの大学の学生11名を対象として半構造化インタビューを実施した。調査結果を青森市、弘前市、八戸市の3つのエリアに分け、「地域の人とのつながり」「就職」「地域に感じる魅力」の影響度を数値化して3段階のグラフで表した。

(1) 青森市エリア

青森市エリアでは、青森大学の学生2名にインタビューを行った。2名とも青森に住み続けたいと思っている。大学の周辺で一人暮らしをしており、メインストリートに行かなくても比較的なんでもそろうため住みづらいとは思っていないが、若者の遊ぶ場所が少なく、息抜きできる場所があれば良いと感じている。

① 地域の人とのつながり

人とのつながりという面では、小学校から高校までの友達と今も友好関係にあった。また被験者たちは同じ部活に所属している。高校と大学の監督同士に交流があり、それが大学でも部活をすることにつながった。その部活を通してボランティアやねぶた運行に関わり、そこで感謝されることが嬉しく、参加してよかったと感じていた。そこから毎年呼ばれるようになり、被験者たちは地域から必要とされているのだと思い、地域の一員だと感じられるようになったとのことだった。これらのことから人とのつながりが地域密着に関わると考えられ、地域の人とのつながりの影響度を「3」とした(表3)。

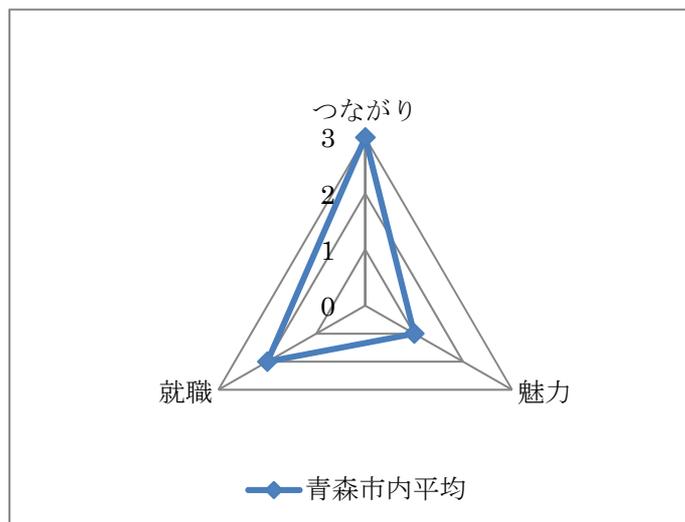
② 就職

就職に関しても青森県内就職と決めていた。企業に求めるものとしては、完全週休二日制であることや安定した収入、ボーナスがあればなお良いとしていた。また残業がないようなクリーンな環境であってほしいという意見もあった。企業に求めることが多かったが、県内就職することに決めていたため、影響度を「2」とした。

③ 地域に感じる魅力

地域の魅力には、青森市と言ったらリンゴのイメージがあり、ねぶたなどのイベントが多く挙げられた。市外では十和田湖や十三湖、白神山地、市内では八甲田といった自然が豊かなことが魅力になる。また、青森市は海が近くにあるため都会と比べて、海産物が豊富でおいしく、価格も安い。このように青森市は観光名所や特産品が豊富にあり、誇れる点が多いという意見が多かった。自然環境の魅力はあるが、大学生といった若者にとっての娯楽施設があまりないという意見が多かったため、影響度は「1」とした。

表 3. 青森市エリアの分析結果



(2) 弘前市エリア

弘前市エリアでは、弘前大学の学生2名、東北女子大学の学生3名の計5名にインタビュー調査を実施した。弘前市内に住んでいる被験者は、一人暮らしや学生寮に住んでいるということが多かった。住みやすく、住んでいる場所の近くにはスーパーや飲み屋街などがそろっており、歩いていくことができるため便利だという意見が聞かれた。人の多さも都会と比べると、住むのにはちょうど良いが、冬には積雪の多いことがデメリットとして挙げられていた。

① 地域の人とのつながり

人とのつながりでは、小学校から高校の友達や先輩・後輩と連絡を取り合っているような被験者が多く、今でも実家に帰ると遊びに行くことが多い。

地域の人とのつながりとしては、お祭りに参加する、ゴミ拾いといったボランティアをすることが挙げられた。地域のイベントに大学のプロジェクトで参加している被験者や、学生団体として地域で活動している人が多く見られた。いずれも地域の大人と、イベントや学生団体を通して関わりを積極的に持っていた。そこで出会った人から、違う人を紹介してもらえたりイベントに誘われたりしたことから、そこから新たな人とのつながりができていた。人との関わりによって、さまざまな人との出会いがあり、つながりが大事だという被験者が多かったため、影響度は「3」の評価とした(表4)。

② 就職

就職に関しては専門的な分野を学んでいる被験者もいるため、地元での就職の幅は限られてくる。そのため、東京を中心とする主要都市に就職する人が多いという印象があった。また、主要都市へ行くことでスキルアップをして、もし機会があれば青森に帰ってくれば良いという発言があった。大学2年生の被験者は、就職についての意向はまだ決まっていなかったが、県外に一度は出てみたいという考えを持っていた。

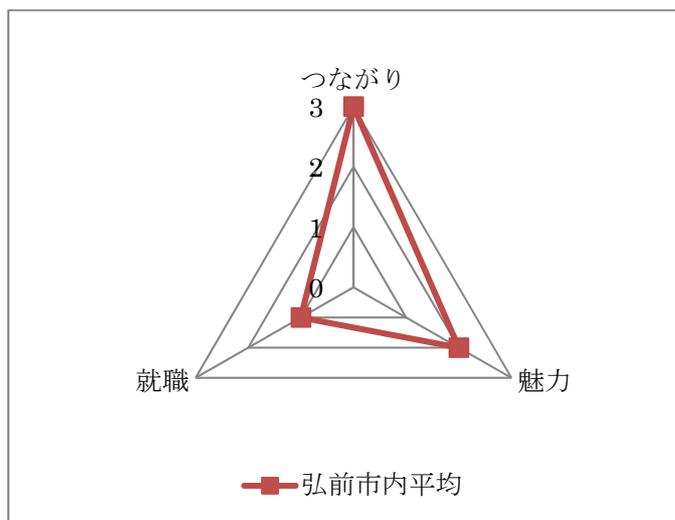
企業に求めることは、週休が2日欲しい、休みが取りやすいことや人間関係がよく、自分の意見を言える、または聞いてもらえるような環境などが多く挙げられた。自分のしたいことを認めてくれる職場の雰囲気や、結婚して子育てするときに休みが取れるような、しっかりした福利厚生を求める意見もあった。青森県内で就職を考えている被験者があまりいなかったため、影響度は「1」とした。

③ 地域に感じる魅力

弘前市の魅力については、やはりリンゴという意見が多かった。またチェーン店ではないカフェが多いという意見も多かった。特に、土手町にある特産品のリンゴを絡めたアップルパイを食べられる店舗が掲載されたパンフレットがあることを聞いた。弘前市の被験者はカフェに行くという人が大半であり、個人経営のカフェが多いことから、そのお店ごとに違った空間や料理を楽しむことができ嬉しいとのことだった。

弘前公園では春には桜祭り、夏には城フェス、秋には紅葉と菊人形祭り、冬には雪灯籠祭りといった四季のイベントが多く開催されることも魅力で、いずれも楽しいという意見があった。逆に、イベントが行われていること自体を知らない、あまり行かないという被験者もいたため、影響度は「2」とした。

表 4. 弘前市エリアの分析結果



(3) 八戸市エリア

八戸市エリアでは、八戸学院大学と八戸工業大学から2名ずつ、計4名の学生にインタビュー調査を実施した。一人暮らしをしている被験者が多かった。住みやすさは、さまざまな物が集中しているため、便利だという意見があった。一方で、交通関係のインフラが不十分であるため、車がないと移動が不便であると感じている発言もあった。

① 地域の人とのつながり

人とのつながりでは、小中高までの友達は、いずれの被験者も5人~6人と答え

ていたが、大学に入ってから活動で人とのつながりが広がっていることが確認できた。大学での学友会という団体による学園祭の運営や、ラジオのMC、ダンスサークルの活動などを通して他の大学生や地域の人たちと交流しているようだ。しかしその一方で、学外や学内のどちらにも交流はあまりないと答えた被験者もいたため、影響度は「2」としている（表5）。

② 就職

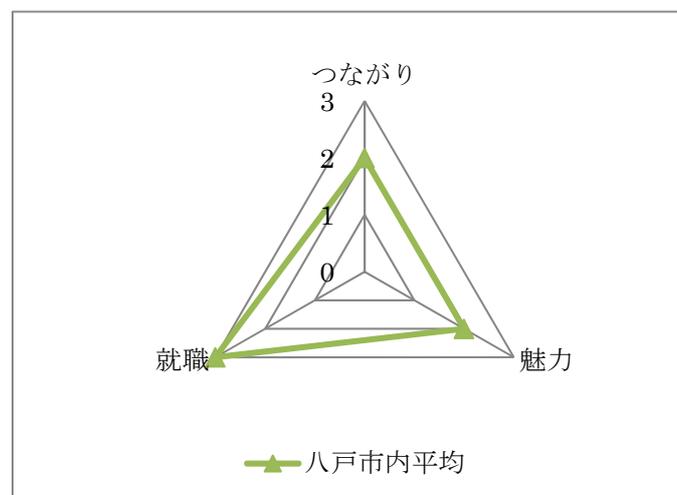
就職については、被験者全員が青森県内就職を希望していた。それは、「人とのつながり」に関係していて、地元でお世話になった人や、サークル活動を応援してくれる人たちがいるこの地域で働きたいという理由があるとのことだった。

企業に求めることは、週休二日制や残業がないことであった。また、やりがいをも求めている被験者もいた。被験者全員が青森県内での就職を考えていたため、影響度は「3」とした。

③ 地域を感じる魅力

八戸市の魅力については、自分たちが行っている活動を応援・評価されることが魅力に感じるという意見があった。学友会なら文化祭、ダンスやラジオが終わった後に「楽しかった」「頑張った」などの声を掛けてくれるだけで、学生生活の活力になるとのことだった。場所に感じる魅力としては、八食センターや山の学校、みろく横丁や海産物がおいしいことなどが挙げられた。その中でも、朝市に魅力を感じるという意見が多かった。しかし、インフラ関係に不満を感じていることも聞き取れた。車がないと移動手段に困るという意見も聞かれた。また、バスの本数が増え、運転が丁寧になってくれれば嬉しいという声もあったことから、影響度は「2」とした。

表 5. 八戸市エリアの分析結果



4 おわりに

以上のインタビュー調査結果から、大学生の地域密着に影響を及ぼす要因は、地域の人とのつながりであることが明らかとなった。学生生活を送る中では、特段の接点がないような地域の人とのつながりは、地域のイベントへの参加や、大学生自身の趣味の活動発表などのきっかけからも醸成されることが分かった。

大学生が地域の人とつながりを持つためには、無理をして興味のないイベントに参加するというのではなく、少しでも関心のある地域のイベントに顔を出してみたり、自分の好きなことを地域の人に見てもらえる機会を自らつくってみたりするなど、大学生の立場からほんの少しの行動を起こすということが求められるだろう。

地域の人にとっては、大学生とどのように接してよいのか分からないといったこともあるかもしれない。そこで、地域の各大学で開催する学園祭に遊びにきてもらうということが良いきっかけづくりになるかもしれない。そのためには、大学側から地域に向けてより一層 PR を行ったり、行政から情報提供や働きかけのコーディネートをしたりすることが求められると考える。

このようなことから、大学生が地域の人とつながりを持ち、そのことが大学生や若者の地域密着につながっていくものと考えられる。

以上、大学生の地域密着の主たる要因である、大学生と地域の人とのつながりについて考察したが、「つながり」という概念は、他の要因である「就職」や「地域の魅力」にも関連することが調査結果から見て取れた。地域に感じる魅力では、その土地の特色のほかに、地域の人が温かいと答える被験者が多かった。これは、大学の課外活動をした際に地域に住む人たちが応援してくれたという経験からきている意見であり、温かく応援してくれるこの地域で就職したいとのことだった。そこで、最後に、副次的な要因である、就職と地域への魅力に関連する政策提案を行う。

① 「補助金使用用途の追加」

インタビュー結果からは、一度都会に出て、その後に青森県に戻ってきたい被験者がいたことから、Uターン型の転職に興味のある大学生がいることが分かった。地域の人にお世話になったことや、家族に恩返しするためにも県外でスキルアップしたいという意見もあった。このことから、現状、行政で実施している補助金制度の使用用途を拡大し、Uターン型の転職支援が必要であると考えられる。

これは、人口流出を抑えるだけでなく、大学進学を機に他都道府県に移住する人、既に移住した人を呼び戻す手段として有効である。既に本県にて行われている方策、インターンによる出戻り学生への交通費補助について、対象となる人々と補助金範囲を拡大することが望ましい。追加対象者は県内就職確定者とし、補助金範囲は引越し代金と列車等交通費とすることで、県内に戻りやすくなり、地元で働きたいと思うための要因の一つになると考えられる。

具体例を挙げれば、窓口を自治体ホームページ上に作成し、週に一度申請の有無を確認することとする。送金の流れについては次頁のような流れを想定した。ただしこの場合、配偶者を対象とするか、交通手段を指定するかという課題のほか、財源確保の課題もある。

- 1) 申請者の住所に列車・航空機チケットを郵便書留として送付する
- 2) 青森に住む両親を代理として銀行窓口からの諸費用送金を依頼する
- 3) 領収証を帰郷者が直接役所窓口へ提出し補助金を受け取る

② 「青森県内企業情報発信の拡大」

現状において学生は企業からの情報がなければ、企業がどのようなことを行っているのかを知ることができない。そこで、企業がどのように地域の人とつながろうとし、また、地域の人と付き合っているのかについて、大学生に知ってもらうことが必要である。地元企業という相手をよく知ることで、大学生が地元で就職しようという意向を強めることができるのではないかと考える。そこで、青森県での情報発信の拡大を提案する。地域に受け入れてもらうため、つながるため、どのようなことを行っているのかについて詳しく掲載した企業情報を発信し、学生に知ってもらう必要がある。その手段として、フリーペーパーを大学や図書館、インターネット上で頒布・掲載することが有効である。このことで、青森県内の企業を知ってもらうだけでなく、企業と個人の情報の格差を解消し、就職後のギャップを解消することができるのではないだろうか。

例えば、繁忙期には残業が増えたり、有給休暇が取得できなかったりすることもあるだろう。しかし、残業代は全額支給する、有給休暇も年間を通じれば完全消化している実績があるといったように、ただマイナス情報を掲載するのではなく、そこにはどういった理由・事情があるのか、また、マイナス面をフォローできるプラスの面があるという情報を発信することで、企業と大学生、地域との情報の非対称性が解消されるのではないかと考える。加えて、企業が地域に受け入れられるようになるために、周辺地域のごみ拾いや地域のイベントへ参加をしていることなども記載することで、入社後のギャップは解消されるものと考えられる。

発行ペースについては毎月1回を目安とし、年末にその年に発行したフリーペーパーを冊子にして各大学や図書館に置くことで、より一層、企業が大学生や地域に認知されやすくなるだろう。

③ 「若者の余暇活動選択肢の増加」

青森県内には、若者が求めるような娯楽施設や複合商業施設、イベントが少ないことが分かった。大学生にとっては、学業面だけでなく生活面の充実も重要である。生活面での充実が見込めないと、自分が求める娯楽施設や複合商業施設、イベントが多い都心へ就職するという可能性は少なからず存在するだろう。被験者からは、大学卒業後に地方に住み続けたい理由として、ライブや大学のダンス、軽音楽などのサークル活動を就職してからも続けたいからという意見も聞かれた。

このように、青森県内での若者の余暇活動選択肢の増加は必要不可欠である。

例えば、青森市の新町のシャッター街を取り上げてみると、2階や3階部分は、かつて商店街を形成した住民が生活しているが、1階部分のみを貸店舗とし、若者のニーズに合うテナントを誘致するということが考えられる。税金や売上など青森県内で循環するお金が増える可能性があるだけでなく、地域とつながり続けるという観点か

らも、実店舗に赴き、従業員との会話を交えながら商品を手にとることも大切である
と考える。

さらに、青森県は車社会であるため、余暇活動の選択肢の増加にあたっては、駐
車場の拡充も不可欠だろう。現状、青森駅近辺は無料で駐車できる駐車場が限られて
おり、不便に感じている声も多いため、徐々に増やしていくことが求められる。

5 参考文献

- 青森県企画政策部統計分析課「平成 29 年青森県の人口について（概要）」
<https://www.google.com/url?sa=t&source=web&rct=j&url=https://www.pref.aomori.lg.jp/release/files/2017/60524.pdf&ved=2ahUKEwjlg5jly9XgAhVKT7wKHbkeAxoQFjAAegQIBRAB&usg=AOvVaw20rmu67rv0KT4VB3T2sDsf> (2018 年 12 月 1 日閲覧)
- 総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告書 平成 29 年度結果」
<https://www.stat.go.jp/data/idou/index.html> (2018 年 12 月 1 日閲覧)
- 引地博之・青木俊明・大淵憲一(2009)「地域に対する愛着の形成機構：物理的環境と社
会的環境の影響」『土木学会論文集』D, 65(2), pp. 101-110.

6 感想

今回のプロジェクトで、初めてグループの代表を務めました。メンバーをまとめること
は大変でしたが、一年間を通してメンバーと協力しながら活動することができたのでよか
ったです。また、青森県の転出超過問題について深く知ることができ非常にためになる経
験でした。機会があればまたこのようなイベントに参加してみたいです。

山本心太郎

今回このようなイベントに参加し、青森市人口減少に対する地域の愛着をテーマとして
活動していきました。インタビューするためのアポを取る、実際に県内の大学 5 つにイン
タビューをし、パワーポイントで発表できました。この活動を通して、大学生の就職に関
する現状、地域の魅力について深く知り、これからは繋げていきたいです。

伊藤皓平

さて、私は同大学の森田ゼミナールの名に於いても参席した身であり、二足の草鞋の為
か多忙となった。地域密着アクターズの人員は少数だったが、少数故に進捗状況を本能的
にも察することが出来た為にある種の危機感を抱いたのが大きい。次回末席に参するな
らば 1 チームに絞るべき。

古舘大河

今回このプロジェクトを通じて、青森の大学の学生は、県外よりも県内に就職したいと
考える人が多いと感じた。調査をする前では、県外に就職したいと考える人が多いと思っ
ていたが、実際には県内に就職したいと考える人が多く、地域に根付きたいと考えている
人が多いことが分かった。次にこのような機会があれば、積極的に参加したいと思う。

佐藤逸良

このプロジェクトに参加したことは、良い経験になったと思います。

大学生に対してインタビューをすることは貴重な経験でした。いろいろな話を聞けたため、楽しかったです。また、さまざまな人とやり取りをする中で、文章の送り方や、アポイントを取る大変さを知ることができたと思います。

この経験を活かして、大学卒業後も人とのつながりを大切にしていきたいと思います。

高橋空也

インタビュー調査の進行

最初に

- ・ボイスレコーダーの使用確認をとること
- ・オフレコ部分があれば、その都度言ってもらえば、その情報は使用しない旨の説明
- ・このインタビューを何に使うのか伝えること（学発プロジェクト、報告書）
- ・今住んでいるところと出身地の市町村名を聞く

1. 地域密着

(1) 定住意向

この地域（青森）に、今後も住みたいと思いますか
→それはなぜですか

(2) 所属意識

あなたは、今あなたが住んでいる地域の一員だと強く思いますか
はい → それはどんな時に感じますか
いいえ → 一員だと思えないのはどんなことが原因だと思いますか

(3) 土地の重要さ

- ① あなたにとって、この土地は、なくてはならない場所だと思いますか
- ② それはどうしてですか

(4) 住民の重要さ

- ① 地域の人々（青森）はあなたにとって大切な存在ですか
- ② 地域の人々（青森）と聞いて誰を思い浮かべましたか
- ③ それでは、それ以外に地域の人々にはどういう人がいて、その人はあなたにとって大切ですか

(5) 住みやすさ

- ① この土地はあなたにとって住みやすい場所ですか
- ② 特にどんなときにそれを感じますか

2. 地域の人とのつながり

※県外の人だと意味合いが変わる

(1) これまでの人とのつながり

- ① 小学校から高校の友達と今でも友好関係にありますか
- ② 同年代以外の人と、良く話をする人がいましたか
例) 近所付き合いや、先輩後輩など

(2) 人とつながる機会

地域の活動はしていましたか

例) 町内でのお祭り、清掃など

→そこから広がった縁、知識はありますか。また、参加してよかったと思うことはありますか

3. 就職に関する質問

(1) 県内就職の意向

就職は、県内就職希望ですか

→なぜ県内または県外の就職を希望するのですか？

(2) 就職にあたって

- ① 仕事でやりたいことはありますか
- ② 企業に求めるものは何ですか

4. 地域に感じる魅力

(1) 青森をどう思っているか

住んでいる地域で、あなたが魅力に感じているところ（好きなところ）はありますか

(2) 地域への理解度

住んでいる地域で、観光名所や特産品などの有名だと思うものはありますか

最後に確認すること

- ・後日電話などで何らかの質問をする可能性があることへの了解をとる
- ・あやふやな部分についての確認
- ・もう一度、オフレコ部分がないかの確認
- ・謝礼を渡して受領書にサインをもらう